

大自在

「みんなの夢 朝比奈の自然に見守られ 天までのぼれ 大望の龍」。手作りロケット「朝比奈大龍勢」は、花火の趣向を独特の節回しで紹介する口上も魅力だ▼き

のう、藤枝市岡部町で2年に1度の打ち上げがあった。今回も第1号は朝比奈第一小児童が作業に参加して奉納。「お〜おりゆうせ〜い」。一直線に秋空に昇り、大成功。子どもたちが夢を寄せ書きした落下傘も大きく宙に広がった▼龍勢花火は全長16〜18尺。先端の「ガンタ」が上空ではじけ、中の仕掛けが光と音、煙のショーを繰り広げる。エンジン部分の「吹き筒」と、かじの役割をする「尾」は竹製。地元13連の作業は盛夏、竹の切り出しから始まる。尾は軽量化のため外側を削り、半分近くの重さになる▼どうしたらまっすぐ高く、安定した姿勢で上昇するか。打ち上げに先立ち講演した増田和三静岡理工科大教授が指摘したポイントの一つが昇り龍にも見える尾の長さ。「龍勢はエンジニアリングそのもの」という。会場では増田教授が指導する藤枝市宇宙科学教室の児童25人も目を輝かせていた▼大龍勢の心意気と技術は継承されてきた。作業に参加した児童や、豪快な打ち上げを間近で見た子どもたちの心に、故郷への誇りや科学技術への興味の灯はともされただろうか。ともし続けて未来への明かりに▼発明王エジソンは日本の竹を電球のフィラメントに使って長時間点灯に成功した。その前段階だが実用的電球を開発したのが1879年10月21日。きょうは「あかりの日」。照明関係4団体が偉業をたたえる。

2018 10 21